



会長の中川さん退任か！無念!! 早期のご快復を・・・

以前から「余り体調が思わしくない」と言われていた中川会長は8月末、金沢龍馬会の会長を辞せられる旨を言われました。一同びっくり致しました。

私たち金沢龍馬会に多くの方々を会員に加えられ、英語も堪能、多趣味な文化人としても会員から慕われ大らかなお人柄であっただけに、ただただ惜しいと思ひ残念無念です。

大病を患った人でないと健康の尊さ、有難さはなかなか判らないと申します。ご容態の変化を聞き、いても立ってもいられない気持ちです。どうかこれからの早期のご快復を心より祈っております。

とりあえず来年6月までは副会長の蛭子さんが会長代行となることと決定しました。

《盛会だった総会と講演会 報告》

～吉田さんの講演に拍手～

日時：6月17日（土）午後3：00～

会場：「桜はなび」金沢市本町 1-3-32

講演：「加賀藩と薩摩藩」

金沢龍馬會事務局長 吉田信夫氏

金沢龍馬会6月の総会は、金沢市本町の「桜はなび」にて開催。青春の血？湧きたぎる22名の男女会員が参加、大いに飲み語り楽しいひと時を過ごしました。

参加者は小屋/中川/玉井/不破/蛭子/宇賀/佐藤/吉田/紐野/勝田/中城/寺元/朝日/周藤/北川/小幡/中田（文）/谷/池田/新谷/藤井/小峰計22名でした。

総会は中川会長を議長に選出し、第一号議案～第五号議案まで審議しいずれも採択されました。

平成28年度議案審議：「事業報告、決算報告、監査報告」⇒拍手で承認

平成29年度議案審議：「事業計画案、予算案」⇒拍手で承認

議案は特に大きな問題がありませんでしたが、今後の予定に対し会費から一定の補助を出すこと、及び会則の細則で「学生会員の年会費は千円、且つ名刺の贈呈」、新役員「理事：周藤氏、運営委員：北川氏」が採択されました。

その後、事務強調の吉田さんの講演「加賀藩と薩摩藩」が行われました。

外様第1位と第2位同士の藩士が幕末・明治にかけ複雑に絡み合いました。加賀藩士と薩摩藩士計8名の人物をめぐる両藩のかかわりを説明しました。

友好関係は2例、あまり友好的とは言えないのが6例でした。最悪なのが旧加賀藩士島田一郎が内務卿大久保利通を暗殺した事例です。

その後、親睦会に移り、守山さんに豊富な料理を準備いただきました。

《金沢龍馬会新年会》

・来年度新年会：ホテルバイキング（会より補助）

【会員のつぶやき】

龍馬と共に広がる世界

福井慎二



金沢に単身赴任していた時にNHK大河ドラマ「龍馬伝」が放送され、小屋さんに誘われ入会したのが2010年。

全国ファンの集いにも参加するようになり14年の横浜大会では企画や司会も担当、全国に同好の士が広がりました。

原点は、小学生の頃に見て感動したNHK大河ドラマ「竜馬がゆく」。

さらに司馬遼太郎の原作を読んで深みに嵌り、京都霊山墓地に墓参りをしたのが二十歳の頃。

バイト代を貯めてアポ無しで正月に寺田屋旅館に泊めてもらったり案内板の無い時代に長崎の亀山社中跡を捜し歩いたり・・・。

昨年、定年退職を機に東京から故郷の札幌に転居し、北海道の龍馬会にも所属。

「一人でなりとも」と龍馬が開拓を夢見た北の地で、北海道に移住した坂本家の末裔の足跡などを研究中です。

まるわかり「龍馬入門講座」⑩

これは2010年NHKテレビで放映された大河ドラマ「龍馬伝」が始まる前、坂本龍馬を紹介する為長崎国際観光コンベンション協会が作ったパワーポイントです。今回連載に際し吉田が若干編集しました。（本掲載は金沢龍馬会内部のみです）

22 龍馬と亀山社中は、薩長同盟の周旋をはじめとして、長州藩に武器を用立てたり、ついには海戦に加勢するなど、長州藩の勝利に貢献しましたが、肝心の経営は順風満帆ではありませんでした。

ワイルウェブ号の沈没により、操船する船にも事欠くようになり、資金面で息詰まります。



援助していた薩摩藩にしても、薩長同盟が成立してしまえば、亀山社中を抱える意味合いは薄れていきました。

一方、幕府の第二次長州征伐に勝利した長州藩と着々と自前の軍事力・経済力を高める薩摩藩を横目に見ながら、藩政改革を始めたばかりの土佐藩は焦っていました。

こうして薩摩・土佐の両藩の利害は一致し、亀山社中の土佐藩譲渡が決まります。

借財については土佐藩が肩代わりし、亀山社中は発展的に解散。人材、内部組織はそのままに設立されたのが「海援隊」です。

ここで土佐藩の参政：後藤象二郎と土佐商会の主任：岩崎弥太郎登場してきます。

後藤は 1867 年 2 月下旬、龍馬の剣術修行仲間の溝淵（みぞぶち）広之丞の斡旋で「清風亭」会談が龍馬と後藤の間で行われます。

龍馬の馴染みの芸妓：お元を後藤がよんでおくという気の使い方だったとか言われています。

こうして土佐藩所属の「海援隊」が発足します。海から藩を応援するという意味で「海援隊」と名づけます。

同時に龍馬と中岡慎太郎の脱落も許され、龍馬は「海援隊」の、中岡は「陸援隊」の隊長となります。ゆくゆくは「海援隊」と「陸援隊」を合体させて「翔天隊」の構想があったそうです。

海と陸に空、天まで翔けようとした思いはロマンを誘います。「清風亭会談」は、その後の土佐藩が政局の主導権を握り「大政奉還」へと突き進むことになる日本史上重要な会談だったといえます。

「続く」（記：吉田信夫）

《大政奉還 150 年第 29 回全国龍馬ファンの集い 志国高知大会 報告》

日時：10月14日（土）15日（日）

会場：高知市県民文化ホール

金沢龍馬会からの参加者は 蛭子/宇賀/佐藤/吉田/中城/朝日 及び会友9名の合計 15 名と過去最

大規模となりました。

国内外から龍馬会会員、龍馬ファンを含め 約 600 人が集い、龍馬たちが生きた激動の時代に思いをはせた。

今年は大政奉還から 150 年の節目の年に当たり、15 代将軍・徳川慶喜が政権返上を朝廷に奏上した 10 月 14 日に合わせた日程で開催との事。

大会では、ロスアンゼルス、グアム、上海、ドイツ、海外で活動する龍馬会の活動報告のほか、高知県立坂本龍馬記念館館長高松清之氏をコーディネーターに、坂本龍馬記念館学芸員、中岡慎太郎館学芸員、龍馬の生れたまち記念館学芸員らが、パネル討議形式で維新に関わった「土佐の四天王」と言われる、中岡慎太郎、坂本龍馬、武市半平太、吉村虎太郎の足跡や思想を紹介した。

特別記念講演は、高知県出身の直木賞作家 山本一力氏より「龍馬と生きる」と題し、氏の視点から見た龍馬の人物像について「調べれば調べるほど物書きには気になる存在」と熱く龍馬の魅力を語った。

大会は、次回開催地引継セレモニーで閉会した。金沢龍馬会から、会員、会友を含め 15 名のご参加をいただきました。参加された皆様お疲れ様でした。

次回大会の開催地は東京です。全国ファンの集いは、決して参加者の期待を裏切りませんので、来年も多くの皆様のご参加をお願いします。

（記：佐藤正樹さん）

☆新会員 105 村田秀彦さん 106 永崎 薫さん

【編集後記】

11 月 18 日（土）一里野温泉「ろあん」で「月見交流」。愉しみいっぱいです。会報も第 13 号が完成、漸く皆さまにお届けすることが出来ました。

***** 事務局*****

金沢龍馬会

会長代行：蛭子政喜

事務局長：吉田信夫

080-5600-1113

jitianxinfu@hotmail.com

会報担当：中田俊郎 090-7806-2269

n-toshio@muji.biglobe.ne.jp

金沢龍馬会 公式ホームページ

<http://kanazawa-ryomakai.com/>

金沢龍馬会 facebook

<https://www.facebook.com/kanazawa.ryomakai?sk=wall&filter=2>

